

第1学年2組 道徳学習指導案

令和6年6月3日

指導者 塩尻 望

1 主 題 遵法精神、公德心 C-(10)

2 教 材 「人に迷惑をかけなければいいのか？」(出典「中学生の道徳 自分を見つめる1」)

3 主題設定の理由

- ・ 社会には守るべき法やきまりがあり、それらを人々が遵守することによって一定の秩序が保たれ、安全や権利が保証される。しかし、自分への甘さや気の緩み、あるいは身勝手な判断からきまりを破り、それが多方面への甚大な被害を引き起こすこともある。本教材は、主人公の「僕」が通り抜けを禁止されている駐車場を通り、思わぬトラブルを招いてしまう。「人に迷惑をかけなければいい」と考えていた「僕」が自分の気づかないところで実は迷惑をかけていたことを知り、反省する姿を通して、法やきまりの意義について考えるのに適した教材である。
- ・ 本学級の生徒は、明るく素直で、何事にも真面目に取り組む生徒が多い。日々の授業や、学級活動や生徒会活動にも仲間と協力しながら前向きに取り組んでいる。しかし、時には学校生活において、「校則で定められている」と分かってはいるものの「みんなしている」「別に誰にも迷惑をかけていない」ときまりを無視して、自分本位の行動をしてしまい、すぐにはその過ちを素直に認めることができない生徒もいる。宿泊研修の中でも、教師が見ている場面ではきまりを守ろうとするが、生徒だけで活動する場では、きまりやルールを意識できていなかった様子も見られた。中学生になると自立心が高まることで他者からの指図を嫌うようになり、行動の基準を自己の内に求めようとする傾向が強くなる。法や学校でのきまりは大切だ、と理解している生徒は多くいるが、その存在意義まで考え、正しく理解している生徒は少ない。
- ・ 本教材では、主人公である「僕」が通り抜けを禁止されている駐車場を通り、先生に「きまりを守らないのが悪い」と叱られてしまう場面から描かれている。まずは、「僕」の「きまりを守ってなくても、別に何も問題が起きていない」という指導に対して反省も納得もしていない心情を想像させたい。再び駐車場を通り抜け、ガラス瓶を叩きわってしまったことで、思わぬトラブルが起ってしまったときの「僕」は、まだきまりの大切さを理解しておらず、大騒ぎになってしまったことを後悔しているだけということをおさえたい。そしてガラス瓶でパンクさせてしまった車の所有者に謝罪に行ったことをきっかけに、先生に朝言われた言葉を思い出し、「僕」はきまりが多くの人々の生活に関わることで、自分だけの判断で軽視してはいけないことが分かったということに気づかせたい。また、「僕」の出来事から「迷惑は気づかないうちにかけてしまうことがあり、法やきまりはそれを未然に防ぐ役割がある」という観点から、法やきまりの意義を見直し、規律ある学校生活や社会の実現についても考えを深めさせたい。

4 人権教育の視点

3-(1)-ア

法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を果たして、社会の秩序と規律を高めようとする。

5 ねらい

法やきまりが自他の生活や権利を守るためにあることに気づき、法やきまりを進んで守り、規律ある社会の実現に努める道徳的判断力を高める。

6 準備物

掲示用カード, 掲示用の絵, ワークシート

7 展開

学 習 活 動	発問と予想される生徒の反応	支 援
1 本時の学習課題を知る。	○世の中に法やきまりがなかったらどうなるだろう。	
2 教材を読み, 内容を整理する。	・登場人物とその言動に注意し, 話の内容をとらえる。	・掲示用カードを使い, あらすじが簡潔にわかるようにする。
3 「僕」のきまりの捉え方について考える。	○「きまりを守らないのが悪い」と言われたとき, 「僕」はなぜ納得できなかったのだろう。 ・誰にも迷惑をかけていないから。 ・どうして叱られないといけないのだと思ったから。 ・何も問題が起きていないから大丈夫だと思ったから。	・「僕」はきまりを守らなくてもなにも問題が起きていない, と考えていることを押さえる。
4 問題が起こった時点での「僕」の考え方について考える。	○駐車場のおじさんのところに謝りに行くことになった「僕」はどのようなことを後悔したのだろう。 ・空き瓶を叩きつけて割ったこと。 ・通り抜け禁止の駐車場に入ったこと。 ・先生に言われたことを守らなかったこと。 ・思ったより大事になってしまったこと。	・この時点でもきまりについての考え方を反省したのではなく, 大騒ぎになったことを後悔しているに過ぎないことを押さえる。
5 「僕」の考え方の変化や法やきまりの意義について考える。	◎先生の分厚い手がやけに熱く感じられたとき, 「僕」はどのようなことを考えていたのだろう。 ・きまりは自分勝手な判断で破ってはいけない。 ・自分は迷惑をかけていない, という考えが間違いだった。 ・みんながきまりを守るから, 自分も周りの人も守られていた。 ・自分では分からないところで人に迷惑をかけてしまうことがあるからきまりを守るのは大切だ。 (補助発問) ★迷惑をかけていないので, 瓶を割っていないのであれば誰にも気付かれないし, 通り抜けてもいいのではないか。 →その理由は?	・きまりが多くの人々の生活に関わること, 自分だけの判断で軽視していいものではないことに気づかせる。 ・必要に応じて補助的に発問し, 「僕」への自我関与を通して, 道徳的価値について自己との関わりで考えを深める。

6 法やきまりについて考える。	★「僕」がこの出来事を通して気付いたことで、一番心に残ったことはどのようなことだろう。 ★「僕」がきまりの大切さに気付くことができたのはどうしてだろう。 ★きまりやルールは何のために、誰のためにあるのだろう。 ○今日の授業を通して自分の体験をもとにして感じたことや考えたことを書いてみよう。	・この授業で感じたこと,気付いたことを文章化させる。
------------------------	---	-----------------------------------

授業後の生徒の感想

○私は、廊下を走ったりルールが守れなかった時もあります。でも、この授業を通して、ルールがどれだけ大切か知ることができました。人に迷惑をかけないようにだけでなく、誰もが嫌な思いをしないようにだと思えます。けがをしたり、嫌な気持ちにならないなど、自分自身のためでもあると思いました。これからルールを大切にしていきたいと思っています。

○ルールが決められているものはそれを守らないと他人に迷惑がかかることがあるからしっかりルールを守らないといけないと改めて思いました。また、自分自身を守るためにもきまりを守らないといけないと思いました。

○自分が楽しくても、人に迷惑をかけたらだめだと思った。ルールはばれないから大丈夫じゃなくて、自分のため、人のために決められていることだからしっかり守ることが大切だと思った。

○自分も「僕」と似たような考え方だったけど、今回の学習を通して、社会にあるルールって何のためにあるんだろう？と考えたときに、自分のためでもあるし、他人に迷惑をかけないためにもある大切なものなんだと改めて思いました。

○人に注意されたら素直に受け止めることと、ルールはみんなのためにあるから守るべきだと改めて理解できてよかったです。ばれなければいいと思っていても人に迷惑をかけてしまうことがあるから、自分のためにもきちんときまりを守ろうと思いました。

